

## 沼の中の愚者

G.Mahler に寄す

僕に復活は既にないと決まった  
泥沼に深々とはまり込んで  
もがけばもがくほど自分を沈めるだけ

<sup>いつ</sup>一時、希望と見えるのはただの戯れ  
絶望に動かずなつた僕をつつき  
是が非でももがき苦しめとささやく針よ

諦めは許さず、許されず

<sup>うち</sup>中にある力は未だ猛く、若々しく  
僕の心に反して抵抗を強くする

永久の苦悶だけが命の証し  
そしてこの大ききうねる重さ故  
死神さえも彼方へと逃げ去る

その逃げ去る姿を見て僕はふと  
もしやこの苦悶の果てしなさこそ  
これこそが復活なのだろうかと呟く

その問いへの答え、誰が持ち得よう  
泥は僕の口と鼻を容赦なくふさぎ  
僕はただ絶望と希望の間を行き来する

(1982.5.18)